

ららばい、通信

Lullaby News

2026年
新春号

令和八年
あけまして
おめでとうございます



画／大野隆司

[目 次]

■ 特集「命のルーツ」

小笠原(高瀬) 露 ―宮沢賢治をめぐる女性
松永先生の思い出
命を愛そう

■ 連載／わらべうた 童謡 詞華抄13 東西「子どもの遊戯」

■ 連載／子ども虐待は、今 チャイルド・デス・レビュー

菊池 弥生 …2
近藤 征治 …4
前田 真澄 …8

尾原 昭夫 …10

川崎 二三彦 …14

■ 連載／日本子守唄紀行

「八雲が聴いた子守唄」

鵜野 祐介 …16

■ 連載

ゆうパック心も体もときめいた好き一日

帯津 良一 …18

■ 連載／直島便り

八十年後の新しい年に

山根 光恵 …20

■ 活動報告

…21

■ 寄付者名簿



令和8年
ららばい通信新春号を
お手元にお届けさせていただきます。

あけましておめでとうございます
「正」は改まる、はじまりという意味「正月」はその最初の月となります。
昔は一月全てを正月と言っていたようですが現在では一月一日から三日までが正月とされています。

農耕民族だった日本人が前年の豊作に感謝し、今年の豊穣を年神様に願うという行事でした。日本は八百万の神がいて、寺や神社に家族がそろってお参りに行くが通例でしたが、さて現代では家でひっそり正月を迎えるという方の方が多いのではないのでしょうか。元旦の初もうで、二日の書き初め、初夢（この年初めて見る夢でその年の吉凶を占いました） 七日の七草かゆ 十一日の鏡開き 十五日の小正月（正月飾りを焼く） など連日の行事をこなすという家庭も少なくなってきました。時代も生活習俗も変わってきたので仕方ないと思う反面、自然の四季と古くからある多くの行事のつぐらひは我が家に取り入れる「昔への畏敬」を持ちたいと思うようになりました。老いてなつかしさの良さが思い出されたせいででしょうか。

ここ数年、我が家では孫も成人したので、大みそかに集まって手製おせちを作ることにしています。昆布はよろこぶ、数の子は子孫繁栄、八つ頭は出世願望、黒豆はまめに働けと…ぶつぶつ言いつつ二人仕事の私の横で孫たちは焼き豚やサラダ、餃子とスープと現代風に勝手に取り組んでいます。年越しそばとお雑煮は私の受け持ち。台所はしつちやかめっちゃかですが、すでに大晦日の我が家の恒例行事となっています。本当に家族が集って迎える正月ができることが最大の新年です。この風景が多分どこかに思い出として残るもののような気がします。

みんなで作った料理は楽しく食べますが、忙しいからと娘から届いた豪華なおせちは最後まで毎年多く残されます。私の正月料理も教わったわけではなく祖母や母のを見よう見まねで創ったもの、伝えるつもりはないけれどいつか多分誰かが作るようになるでしょう。行事は暮らしの中から生まれると年とともに実感、どんな正月になっても、それはそれで仕方なし、自分なりに納得していくしかない、ただ私が仏様や神棚に手を合わせる姿勢だけは家族に記憶させたいと願っています。

日本子守唄協会 理事長 西館好子



シリーズ 瞽女―祈り⑦ 新潟県上越市名立区

大河

国見 修二（詩人）

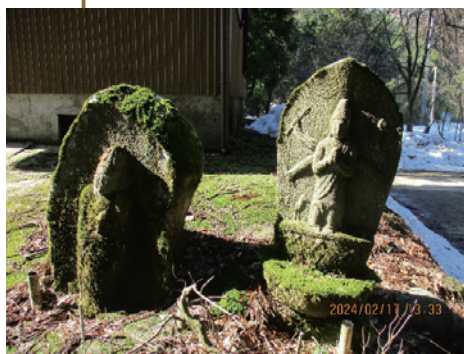
大河の流れのように
尽きない苦悩の道

三味線弾いて
村人に喜んでもらった

所詮一人歩く道と知ってはいるが
三人で鎖のように心つないで
歩いてきた

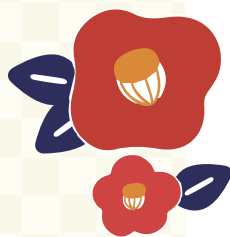
〈生きることもいいものだ〉

詩集『瞽女―祈り』より



瞽女は1年の約300日を旅したという。
雨の日も雪の日も歩いて村人の前で歌った。

唄の ページ



みんな明るい子どもたち

「あるきましよう はしりましよう」

作詞…小林純一
作曲…中田喜直

あるきましよう あるきましよう
おててをふりふり らんらんらん
おうまのように らんらんらん
いちにいちに らんらんらん

「ゆめよぶ春」

作詞…勝 承夫

はしりましよう はしりましよう
おててをくるくる たったた たった
こいぬのように たったた たった
いちにいちに たったた たった

わたしのまどにささやくうたは
こころのはるにうまれる
うたはやさしいしらべ
うたはやさしいはなの
ことりのこえ

とびましよう とびましよう
おててをひろげて ぴよんぴよん
うさぎのように ぴよんぴよん
いちにいちに ぴよんぴよん

わたしのむねのとびらを
こころのなごむことりの
ひらくたのしいしらべ
うたはやさしいはなよ
ゆめよぶこえ

「はるよいこ」

作詞…相馬御風

春よ来い はやくこい
あるきはじめた みいちゃん
あかいはおの じよじよはいて
おんもへでたいとまっている

春よ来い はやくこい
あうちのまゑの ももの木の
つぼみもみんな ふくらんで
はよさきたいとまっている

「東京新幹線音頭」

作詞…江戸川友太郎

東京はなれりや恋風切つてよ
栃木 白河 会津の山ヨ
柿の福島 飯坂温泉
東北新幹線にのせて
旅はみちのく
走りましようはしりましよう

青葉若葉の緑の里でよ
伊達は仙台七夕まつり
寺は松島瑞巖寺
東北新幹線にのせて
旅のみちのく
走りましようはしりましよう

南部あねごのお酌で飲んでよ
鉛 大沢 花巻温泉
馬の盛岡チャグチャグ馬つこ
十和田 八戸 野辺地の海はよ
出船 入船 霧笛を鳴らし
家用青森函館港

津軽娘の踊りでかこむよ
三味の音色で手と手をつなぐ
旅の情けて花が咲く



ルーツを考える

人は突然一人で生まれ、一人で生きてきたわけでは
ありません。

人類発生時から、長い長い歴史の時間の中に、奇跡的に一瞬の登場として「わたし」が存在し生きているのです。私の存在は数えきれない過去がつまんだ荷物を背負っています。ルーツは過去と未来の橋渡しの役目をしているのかもしれない。

大抵は母や地域や故郷に眠っています。なつかしさ、惹かれるもの、影響を受け続けるもの、いつでも還れるもの、心の平安につながるもの、さまざまにその人の哀感とその時間に遊べる情感を含んで、忘れることのできないもの。ルーツは関わる中に静かに血脈に流れる宝物といった捉え方ができるものなのだと思います。

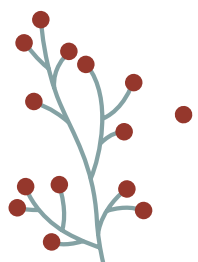
私のルーツは生まれて育った浅草という下町、子供時代を送った幼年期の福島県小名浜の海。

そして生き方に大いに影響を受けた両親といったところでしょうか。人混みと海鳴りと毎日の暮らし、なんかアンバランスなのに、何かにつけて私を支え続けてきた原点です。

一口に行ってしまう「故郷」でしょうか。

子守唄協会初代会長のは松永伍一さんは「すべての男たちは母のいる故郷を原点として頑張れる」と言っていました。戦争で命を落とす瞬間にいう言葉も「お母さん」かの名野球選手のイチローさんもバットを振る瞬間に母を思うとおっしゃっています。命を繋いできた原点に「母」は不動でいるのだと思います。

つまりルーツを考えることは、誰もの人生の物語の始まりであり、「金だけ、今だけ、自分だけ」の刹那的になった現代からの人間回避の原点になるのではないのでしょうか。



小笠原（高瀬）露

——宮沢賢治をめぐる女性——

宮沢賢治の生涯は、三十七年と短い。結婚歴はないが、女性に全く縁がなかったわけではなく、心を動かされた何人かの女性が知られている。

賢治は十八歳の時、蓄膿症手術のため盛岡市の岩手病院へ入院し、同い年の看護婦・高橋ミネに心をときめかす。初恋の相手との結婚は両親に反対される。後になって賢治が結婚したかった女性とは、三十二歳の時にお見合いをした伊藤チエである。賢治の友人・伊藤七雄の妹で九歳年下のチエは、知的で聡明、匂わんばかりに美しい女性といわれている。

この二年ほど前、賢治は高瀬露に出会っている。露は明治三十四（一九〇二）年、岩手県裨賀郡花巻町（現花巻市）出身の士族の家系である。賢治より五歳年下、二番目の妹シゲとは同級生である。大正七（一九一八）年、花巻女学校を卒業し、卒業後は花巻で小学校教師となる。十九歳の時、花巻バプテスマ教会で洗礼を受けた当時は珍しいクリスマスチャンである。

實閑尋常小学校教員だった二十五歳の頃、大正十五（一九一六）年秋から昭和二（一九二七）年



オツベルに虐げられし象のごと

心疲れて山に憩ひぬ

いく度か首をたれて涙ぐみみ師には
告げぬ悲しき心

遠野では上郷小学校の後、松崎、青笹、綾織、東禅寺、遠野の小学校に勤務し、一男三女を育てる。昭和二十（一九四五）年、夫の牧夫が五十二歳で死去。四十五歳の時、養護教諭の資格を取得し、遠野小学校と青笹小学校に勤務する。ある教え子は、小柄だが品格があり、落ち着いた存在感のある先生だったと語る。五十歳を迎えた年、遠野カトリック教会で洗礼を受け直す。昭和三十五（一九六〇）年、定年退職。昭和四五（一九七〇）年、六十八歳で亡くなる。

賢治の死後、「雨ニモ負ケズ手帳」から「聖女のさましてちかづけるもの」という詩が発見される。この詩により、クリスマスチャンの露は、短絡的に「悪女」と結び付けられてしまう。更に露の没後、昭和五十二（一九七七）年発行の『校本 宮沢賢治全集』（筑摩書房）第十四巻の年譜において、日付、賢治による宛先不明の下書きが発表される。この下書きの公表により初めて高瀬露という名前が活字化され、全国に露の悪女伝説が広がる。昭和五十五（一九八〇）年『新修 宮沢賢治全集』第一六巻では、「下書きは、高瀬露の存命中、その私的事情を考慮して公表していなかったものである」と筑摩書房は苦しい弁明をしている。宮沢賢治生誕百周年を機に、高瀬露の擁護論



遠野文化研究センター研究員 菊池 弥生

夏頃までの間、賢治が設立した「羅須地人協会」で手伝いをする。三十歳の賢治は、「気の利く美しい女性がいろいろと片付けたりしてくれて助かる」と喜ぶ。弟清六の話や露が知人に送った葉書によると、協会では賢治の大好きなベートーベンのレコードを鑑賞したり、賢治に讃美歌を教えて、オルガンを弾きながら讃美歌を歌ったり、二人の共通の話題は音楽だったようである。

ところが、露は賢治に惚れ込み、夜となく昼となく訪ねて来る迷惑な女性、返礼品として布団のようなものをもらい、思慕の念を強める女性、押しかけ女房のような困り者という歪められたイメージが流布される。そのため、賢治は露を避けるようになる。賢治は頬に灰を塗って「レブラ（ハンセン病）です」と偽って面会したり、十日間位も「本日不在」の張り紙をしたり、座敷の押し入れに隠れていたという。

ある日、羅須地人協会でライスカレー事件が起きる。ある女の人が賢治を訪ねて来て、掃除をしたり、台所をあちこち探して、ライスカレーを料理した。そこにいた隣人の百姓たちが、料理や

を表明する研究者たちが出てくる。同年、七尾短期大学教授カトリック伝道士の上田哲^{あきひろ}は、「高瀬の言い分は聞かず一方的な情報のみを受け入れ、いわば欠席裁判的に悪女と断罪しているのである。賢治もまた、彼の耳に入る誤伝に基づいて彼女を避け、確かめもせず彼女に対応したと思われる節がある」と再検証する論文を発表する。

更に上田は、「彼女は生涯一言の弁解もしなかった。この問題について口が重く、事実ではないことが語り継がれている。とはっきり言ったほか、多くを語らなかった。これは彼女がキリスト者であったことによるのかもしれない」と推測する。しかし、露の親族によると、弁解や反論をしなかった本当の理由は、宮沢家という大きな存在があったこと、賢治の妹のシゲと親友であったためと語っていたそうである。一方、遠野の嫁ぎ先や花巻の実への影響なども配慮した結果であったかもしれない。

上田に続き、平成八（一九九六）年、遠野小学校と青笹小学校で露と同僚だった遠野物語研究所研究員の佐藤誠輔も論文を発表する。「私と妻は晩年の小笠原露と同じ小学校に勤めたことがある。既に子供たちを育て終え、養護教諭となっていた彼女は、ひとの悪口を言わない教師として、同僚たちから一目をおかれていた」と露の人物柄を語る。また、「露の口からただの一度も宮沢賢治のほんの一言さえ聞くことがなかった」とも証言している。

最後に、佐藤は露の隣家に住んでいた人から、人づてに聞いた話として、「露先生がたった一度、宮沢賢治を口にしたことがあるよ。よほど嬉し

いことでもあったのかな。『わたしね、ひよっとすると賢治さんのお嫁さんになっていたかもしれないんだよ』とね』と結んでいる。波乱万丈の人生を送った露だが、実は普通の女性であり、心を許していたお隣さんに語った若い頃の大切な思い出は、今後の賢治の研究において新資料になるであろう。

ての研究が進み、再調査をする研究者たちの論文や書作が発表され、露の本来の人間性と名誉が回復され始めている。



小笠原(高瀬)露
写真提供 佐藤美智江



松永先生の思い出

—GOICHIフォーラム座談会を終えて—

画家 近藤征治



大木町制施行70周年記念事業
GOICHIフォーラム

大木町制施行70周年を記念し、大木町出身の詩人で評論家の松永伍一先生(1930〜2008)を顕彰する「GOICHIフォーラム」が10月25・26日の2日間、西館好子先生を中心に交流のあった歌手・松原健之さん、詩人・国見修二氏、松永伍一文学保存の会長・鳥取英紀氏と近藤の5人で「伍一の子守唄研究の功績」を振り返りながらの座談会を行った。26日のコンサートでは、西館先生の司会で前半はピアノ・ストのはせがわふささんの伴奏で歌手・川口京子さんの子守唄。後半は歌手・松原健之さんと大地あきおさんの「歌謡ショー」として数曲ずつ歌声を披露。二日間とも町民の皆様喜んで頂き盛会に終えることが出来た。

参加者… 近藤征治 国見修二 鳥取英紀
松原健之 西館好子

松永先生は私の郷里福岡県三潴郡大木町の出身の詩人です。

その他農民詩や子守唄の研究でも日本の第一人者でもあります。

が、私にとっては中学校の恩師、そして生涯を通しての自分の指針を示してくれた大恩人、その思いは今も変わらず「先生」への尊敬と身近な親しみは今も全く変わることはありません。

見事な教育者であったと思います。恩師「松永先生」の思い出は年を経ることに深くなり、私は「その生徒」として今も生徒のままでいます。

松永先生は当時八女高校を卒業すると同時に代用教員として花宗中学校にやってきました。私たちは先生の下で詩を教わり、雑誌を出し、そんな文化活動室を持っていたのです。

先生は幼い時から文学少年だったそうです。そんなたたずまいが全身から感じられました。物静かで、いつも落ち着いていて、柔らかな声で、ちょっとささやくように話します。この姿勢死ぬまで変わりませんでした。



まだ幼いころ私は着物に麦わら帽子をかぶり、長い野の道を歩いていった松永先生の姿を忘れることはありません。夕暮れのシルエットの一枚のようでした。詩を書く先生であることは知っていました。詩がどういふものかはさっぱりわからなかった子供たちに、そんな詩を書くことを教えてくれたのも先生です。

考えれば生活詩だったのでしょうか。先生は私たちが中学卒業と同時に、文学を志して上京し、しばらくは音信が途絶えましたが、またいつの間にか行き来は再開、仲間との交遊も変わることもなく続いています。先生の教え子たちは仲がいいのです。文学の道で活躍する先生の動静もいつもちゃんと把握していました。

さて、25日の「伍一フォーラム」に参加した詩人の国見修一さんは詩人の師弟関係を持った数少ない方ですが松永先生の詩の中に人間観や母性の優しさがあがれたったといっていました。

思い起こせばこの母親の縫った着物と麦わら帽子で野の道を歩くという風景の中に先生の原点があるようにも私は思いました。

土手でしょうかね、背後に広がる九州独特の夕焼けや青空の中に浮かび上がるシルエット。ふるさとや母や草花を感じながら、自然と一致した日常が松永先生の感性を育てる根があったような気がします。国見さんは持っている「姿勢」ではなく、「詩性」の持ち主と称していました。私は、別で詩ではなく「絵」の世界に心を誘われました。

書いた一枚の絵を先生は黙ってある展覧会に出展し、それが賞を取りました。

びっくりしたうれしかったです。もともと好きで書いていましたが、自分を表現できる心地よさが、人様に認められたこと、そのきっかけを松永先生が見つけ導いてくれたと思っています。

「征ちゃん絵ば書くがよか」
とやさしくいわれました。

私の長兄は実業家になりましたが子供のころからお前は日本のゴッホになれなんて本気で言っていたこともありました。松永先生の言葉は追い打ちをかけて胸に響きました。

それ以来私の生活から「絵を描く」ことが無くなったことはありません。

画家になろうといった気持ちではなく、絵を描くことを生業とする時期もなく絵は自分にとっての心の支え、癒し、無心、といった精神的な友であり続けました、今も多分これからも絵筆を話すことはありません。

もうお一人松永先生を偲んでフォーラムで発言なさった鳥取英紀さんも先生の教え子の一

人、詩を先生に教わりたつた三行の詩が先生の推薦で賞に入ったことを忘れず、今も心の支えとしていらつしやるとお話されました。
「三行の詩はどんな詩でしたか」と西館さんに聞かれて即お答えしていました。

魚突きに行った
何もかもが魚の姿に見えて
きえていった

というものでした周りのすべてが魚に見えたのでしょうか。

なんか当たり前なのに確かに子供の情景がほほえましい。

松永先生の目は純な子供たちに「詩」や「絵」という心を教え、導き、生きる力が湧くように育てたまさに先生「教育者」であつたと私は思っています。

世界的な画伯でいらつしやる野口忠行さんも会場から発言くださり、ベル・に行くきっかけを頂いた松永先生のお話を下さり、その心を育む筑後地方の文化の豊かさや郷土愛が根にあると締めてくださいました。

松原健之さんと子守唄

八女高校の先輩後輩の関係にある五木寛之さんと松永伍一がともに愛した歌手の松原健之さん。

その人柄や才能をもってまた愛される要因を兼ね備えていられるのは十分理解できます。私も

ら感謝申し上げたいと思います。本気になって動く人がいて大きく何かが動くことを心強く感じました。

○大木町誕生と松永伍一

昭和27年(1952年)花宗中学校が誕生し、松永伍一先生も22歳の時花宗中の代用教員となられました。昭和30年大莞・木佐木・大溝村が合併し大木町が誕生しました。町民は大喜びの中あらゆるイベントがありお祭り騒ぎ、私はその時の子供相撲大会に出場したことを今でも鮮明に覚えています。

○大木町はどんなところ

大木町は筑後平野の一角で有明海の干拓が土壌を豊にした米どころであり、大木町誕生の頃までは敷物莫産の蘭草栽培も盛んでした。
イチゴ他の農産物、近年ではキノコ栽培が全国的に人気となっており、経済的にも豊かなところだ。

気候も温暖で人々も心豊かで優しく明るい。

○縁ありて人生たのし

松永先生は人の出会い絆ご縁についての内容の本が三冊に書かれています。この度のGOICHIFORUMに出演された皆様も松永先生を通じてご縁のある方々ばかりです。先生が天界から繋げて下さったのだと思っております。これからもご縁を繋ぎ続けていきたいと思ひます。



COLUMN

「イベント後の記念館訪問など」

フォーラムを終えた翌日、西館好子理事長と国見修二氏と二日間居残り、隣の大川市にある古賀政男記念館、柳川市の北原白秋記念館、その他を訪問しました。

●古賀政男記念館

記念館館長・山田永喜氏(古賀メロディギターアンサンブルリーダー、野口画伯教員時代の教え子)直々、ご案内説明をして下さり、その上、野口画伯が描かれた古賀政男肖像画の前で、古賀メロディ名曲「影を慕いて」「人生の並木道」等、ギターを抱えて哀愁深く爪弾いて下さいました。感動の余韻が残るひと時、古賀メロディーの曲の背景や苦難の人生の中での曲作り、最後はご養子となられた山本文晴、富士子(女優)夫妻との穏やかな親子関係に心安らかな晩年であったということも自叙伝に書かれていました。

●北原白秋記念館

元北原白秋記念館館長・大橋鉄雄先生が西日本新聞に「白秋うれしかりけり」記事連載されていて、それを読まれた西館先生が大橋先生と是非お会いしたい意向だったので前もって記念館でお会いしました。展示資料を見ながら、白秋の生涯を詳細な説明でご案内いただいた。大橋先生の気さくでユーモアあふれる話しぶりが印象的で有意義な時間を過ごすことが出来ました。現館長西田江利子さん、学芸員高田杏子さんの暖かなご案内とお話に白秋が柳川をどんなに愛していたかが伝わってきました。

●松永伍一生家を訪ねて

江戸の中期頃から松永家は庄屋豪農「油屋」の屋号でよばれていました。伍一は幼い頃「油屋のジョン」と呼ばれていたそうで、ちなみに白秋はトンカジョン(長男)です。

時代も移り変わり現在では当時の面影は殆どありませんが甥御である松永家継承者の松永一完様が当時を偲ぶ数点を説明して下さいました。立派な梅・松の老木、松永先生が建立された「お兄さん(戦死)の記念歌碑」が当時を思い起こさせるように凛として庭に立っていました。この長男が文学通で歌など詠んでいて柳原白蓮と親交があったということでした。

●柳川の川下り

「どんこ船」は有名である。気温が低く寒い日でしたが方言丸出しの船頭さんの話が面白く、柳川城の掘割りを下り左右の景色をみるとは、勝手は飲み水にも使われ高田水汲みの川べりの石段に猫がのんびり寝そべっていたり、鳥が置物のようにと止まっていたりと、飽きることはありません。情感を感じるあつという間の1時間でした。



柳川川下り「どんこ船」にて楽しむ



松永伍一文学記念碑前にて

うたいながら
かあさんと織りあげる人生模様
それが子もりうた

記憶のなかに咲きつづける祈りの楽譜です
「愛」という言葉はいりません
まさに松永先生の見事なメッセージだと私も思いました。

登壇者からは、「松永さんの詩には、優しさや葛藤(影)が共にある。人を思う優しさがあるからこそ、矛盾や痛みにも敏感だった」、「子守唄は、愛情だけでなく、苦しさや孤独も包み込む」、「出生、母親、兄との関係性が原点にあるのではないか」などの言葉が印象的に語られました。また、写真や思い出を交えた語りの中で、子守唄が単なる懐かしさではなく、「生きる力」として次世代に伝えるべき文化であることを改めて実感する時間となりました。

改めて、自分を育ててくれた原点がいかに大切で大きいのかを、再認識させていただいたフォーラムでした。

フォーラムを終えて

○この企画、大木町関係者に感謝

この企画においては、未来を子供たちへの思いから広松町長様が前向きで精力的に行動されたことをつぶさに感じておりました。そして運営に関しては北原教育長、大木町地域づくり課の職員の皆様の並々ならぬご尽力によって、このイベントが滞りなく成功裏に進行したこと心か



命を愛そう



子どもがまだ幼い時、シングルマザーになりました。急遽お給料がいただける看護の職業に就いたのですが、産院の院長先生から「これから、助産師が必要になる時代だから、免許を取っておくといいよ」とアドバイス頂きました。確かに、将来を考えれば、仕事をしながら学べる環境にあったのですから、よし、頑張ってみようと思いました。女性が一度は通るお産への道、自分も一度は経験したけれど、興味深いし、そのお産にかかわる知識を持つのも悪くない。未来永劫女性とお産とは切っても切れないものですから、やりがいがあるぞと奮起しました、

何しろまだ子育て中でしたから大変でした。両親やこどもの保育園の皆さんの協力、沢山の人たちに励まされ助けられ、看護婦から助産師になるにまる5年かかりました。長いようですが、必死でよく頑張ったと思いますよ。

で、分かったことは、お産という興味深い世界は知れば知るほど深いそして楽しい。やはり生みの苦しみを笑顔に変えて人間の誕生の笑顔に変えられるのももの。

まあ、多くの人はお産の仕組みを勉強なんかしていません。

解すること、体の機能を探っていくことが大切ですね。そして妊婦さんのそれぞれの個性に合った出産の場をプロデュースしていくことでしょうか。助産師の役割は陣痛、出産までの時間の中で、妊婦に気持ち落ち着かせ妊婦の体に合った道程を作っておけることだと考えています。

例えば、今はやりの夫の立ち合いです、すべての妊婦がそれを望んでいるわけではありません。妊婦が自分の体を使うわけですから、立ち合いを拒む人がいても当然です。妊婦さんの多くはさまざまな不安を抱えながら分娩室に入りますから、「ありのままで大丈夫ですよ。」って背中をさすって安心していただく言葉も大切です。子宮口の状態や陣痛の具合を確認しながら産声をあげるまでの段階を一つひとつクリアできるように、優しく導いて安心してもらうのも助産師の役割だと思っています。

新しい命と向き合う感動がなければこの仕事は長く続けられません。

命の素晴らしさを身体で感じ取る、このことを妊婦にどう伝えよう。

お産のときの緊張と弛緩の繰り返しは、波の寄せ返しと同じで、繰り返すことによって徐々にエネルギーが高まっていきます。つまり緊張と同じくらいの弛緩がないとエネルギーにならないのです。妊婦さんはこの運動を自ら体験することによって、命の素晴らしさを感じ取ってほしい。

お産は「命の愛おしさ」を教えてくれる究極の場。命を愛し、未来へ繋がっていくことを望んでいます。

助産師 前田 真澄



痛みとか突発的に来る出血などに狼狽します。びっくり仰天の時間を味わうのが普通、本当に経験したからわかりますが、初めての経験に女性の女性たる道がはつきり見えてきた感じが私でした。

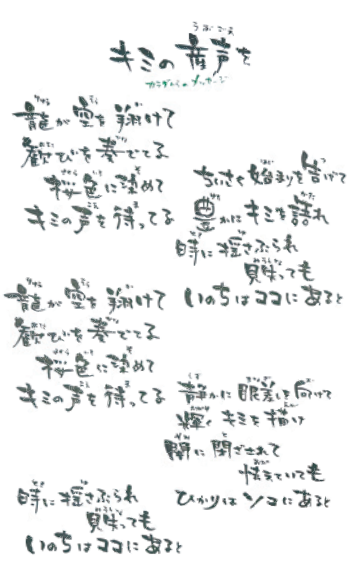
私たちは女性ですが、女性という体の仕組みを案外知らないということに気が付きました。でもだんだん、助産師の仕事をしていてあるときからお産、分娩という神秘的な仕事に就いたことに誇りさえ感じるようになってきました。

私のいる分娩室はまさに「命の宝庫」といった思いの希望と未来を生み出す場だといった高揚感がありました。

女性の身体を持つ神秘について、お産から未来が見えることを、妊婦に教え伝えたいと気付きました。

昔からお産は忌、不潔で不浄なものがついて回りました。

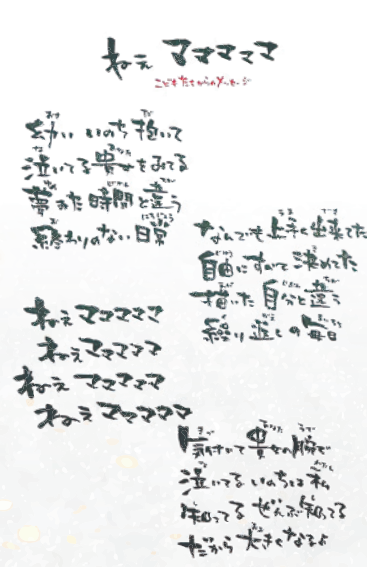
性の結果の生理的なことに立ち向かう妊婦は家から遠ざけられて、汚いものであるかのように扱われ、そのことに苦しみという時代が長く続きました。今はそんなことはありません。



そんな祈りを持つようになり、なんと気づいたらなんとこれまで千五百人以上の赤ちゃんをとりあげてきました。まさに分娩室は「生命の宝庫」奇跡の宝物の場所でしたが私自身にとっては輝かしい心地よい居場所であったということです。

お産から学ぶ性教育

お産時に伴う排泄も汚いと考える妊婦さんが多いのですが、それは当たり前のことで汚いもの



基本的には妊婦はお産の知識がなくても出産はできるんです。お産は身体機能を使いながらすることですから、頭の中で余計なことを考えたり、知識を入れたりするより、身体に従った方がいい場合が多くあるんです。日本の産院の多くはベッドで仰向けになる姿勢（仰臥位）をとっていますが、実は妊婦が自分のお腹を見るような姿勢、四つん這いや座位のほうが赤ちゃんは出やすいんですね。

助産師が知っておくべきことは、体の仕組みを理

ではないと説明します。そもそも尿や便を出す場所は性行為をするところと差異はありません。そう考えれば「汚い」という認識もずいぶん変わってきますし、このようなからだの仕組みや命の尊さ、人間の身体はとも素晴らしいものを備えているのだと、子どもの頃からきちんと教えていけば、衝動におもむくまま性行為に走る若者はいなくなるのではないのでしょうか。また、自分の身体は自分でよく知って恵よく知っておくことの大切さも性教育に大切な一項目です。命を守ることは自分の命を心身のありようを知っておくところが基本だと教えていくことではないでしょうか。

突如舞い降りたメロディー「夢をみておいで」

十数年前、ふっとわたしの頭の中に舞い降りたメロディーがありました。たさんのお産を通して私に下りてきた恵みだったのでしょうか。その物語は命の物語りでもありました。やがてその物語りは曲や絵本となって広がっていました。皆様のお手元に届くことを願っています



前田さんが仲間と発行した音楽を感じる絵本「夢をみておいで」

東西「子どもの遊戯」

わらべうた 童謡 詞華抄 13

わらべうた研究家 尾原昭夫



お守 鳥獣人物戯画断簡



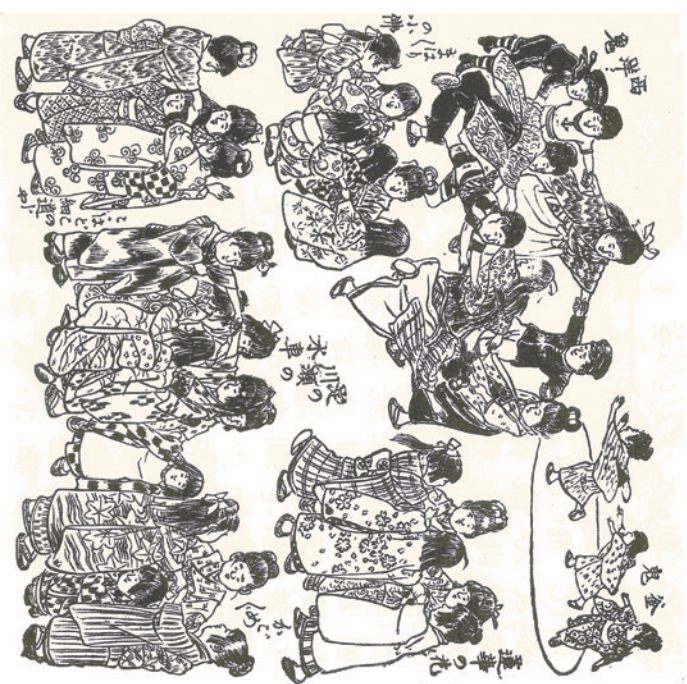
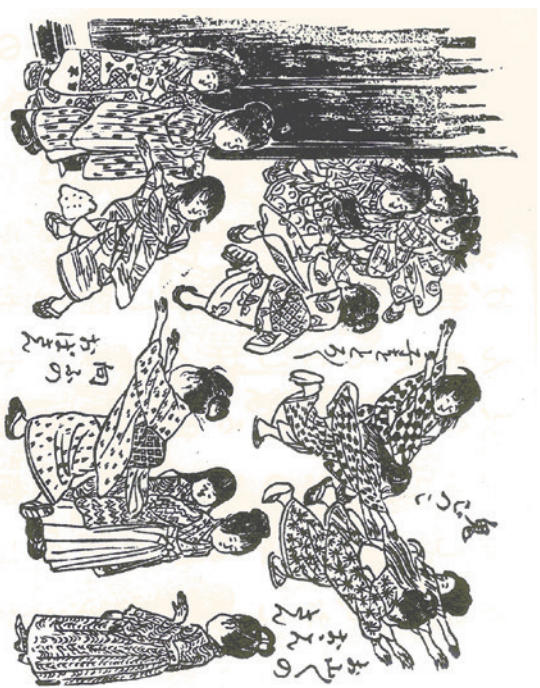
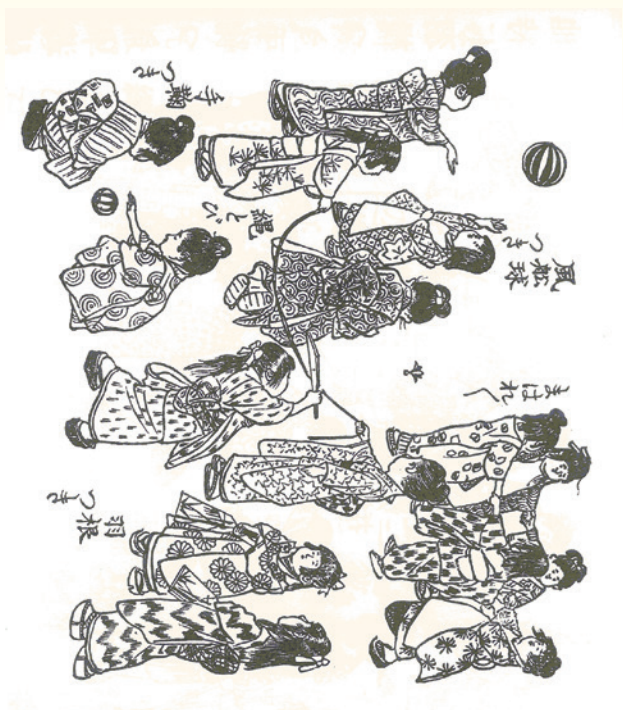
いたわる 鳥獣人物戯画(平安時代後期)
日本の絵巻6 中央公論社

全世界の子どもに平和と希望を

「条約国は、子どもが、休息しかつ余暇をもつ権利、その年齢にふさわしい遊びおよびレクリエーション的活動を行う権利、ならびに文化的生活および芸術に自由に参加する権利を認める。」(第31条)「戦争にまきこまれた子どもを守るために、できることはすべてしなければならない。」(第38条) 国連 子どもの権利条約



風流をさなあそび
歌川広重画(江戸後期) 筆者蔵



子ども遊び
松本洗耳画 東京風俗志(明治時代) 筆者蔵



「子どもの遊戯」
フリューゲル Pieter Bruegel (16世紀) ウィーン美術史美術館蔵 世界の名画606

連載 15

子ども虐待は、今

チャイルド・デス・レビュー

子どもの虹情報研修センター

川崎二三彦

父の死

私の父が死亡したのは昭和最後の日。だから葬儀は平成になって執り行われた。正月はごく普通に過ごしていたのに、急に容態が悪くなり、家族に見守られての最期だった。

「ご臨終です」

主治医が声を落としてそう告げると、真っ先に遺体に取りすがったのは母であった。

「お父さん、アキラのところへ行って私たちを守って下さいよ」

これだけは是非とも言うっておかねばならぬといった切羽詰まった調子で話しかける母の姿に、正直言って、私は驚きを禁じ得なかった。アキラは私の兄に当たる人物で、私がこの世に生まれる前、自宅の裏にあった小さなお堀にはまり、5歳で水死していたのである。

以来40年、私の知る限り兄のことが話題にのぼることはなかった。しかし母は、またおそらく

父も、アキラのことは片時も忘れていなかったのだろう。我が子の死が、子どもの死が、いかに重いのかを思い知らされた瞬間であった。

子ども虐待防止学会ほっかいどう大会

さて、今年の子ども虐待防止学会学術集会は、北海道で開催された。前日入りして新千歳空港に降り立つと、11月半ばで早くもみぞれ混じりの雨。肌寒さを感じるなか、約3千人が参加して熱気あふれる集会となった。メインテーマは「子どものしあわせ みんなのしあわせ 考えよう」子どもの権利。元国連子どもの権利委員会委員長の大谷美紀子弁護士による基調講演など、興味深いプログラムが目白押しだった。

そして私も、いくつかの企画に参加させてもらった。

その1つは教育講演「虐待死から何を学ぶのか」。また、「チャイルド・デス・レビューをもう一

CDR劇団

その1つが、検証会議の具体的な様子を脚本に仕立てて披露する企画。ワーキングのメンバーが、架空のCDR委員に扮して実際の会議の様子を演じるのである。脚本はメンバーの一人が執筆し、何度も練り直して完成させるのだが、今回は私も教育委員会職員の役で参加した。

発表の前夜と当日の早朝に集まり、2度にわたって読み合わせをするなど、万全の準備をして臨んだその出来映えはどうだったか。以下では、脚本の一部を紹介しながら、CDRについて考えてみたい。今回創作したのは、子どもの泣き声でパニックになった父親が、生後5か月の女児を激しく揺さぶって死亡させた事例である。

「これらが、これまでを決める」

「すみません、この事例は、すでに虐待死亡事例検証で検証されていると聞いています。もう一度CDRで取り上げる必要があるのでしょうか」

「確かに、虐待死検証では事例が詳細に検討されていきました。ここでは、赤ちゃんの『泣き』について、また揺さぶりの予防などの視点から話し合ってみてはどうでしょう」

こんなやり取りのあと、「赤ちゃんが泣き止まないシーンと揺さぶりの影響を解説した動画を乳児健診の際に見てもらってはどうか」「動画のQRコードを母子手帳に貼り付けておけば父親にも見てもらえるのでは」などの意見が交わされた。また、警察官役の人が、「泣き声がひどく、『虐待が心配だ』という連絡を受けて家庭訪問したことがあります。赤ちゃんがアトピーで泣

いていただけでしたが、その方は、訪問されたこと自体にショックを受けていました」と話すと、児童福祉司に扮した人が「通告は、支援の必要な子どもに気づいた人が、児童相談所等に『支援してください』と連絡することであって、決して親を責めるためではないんです」などと説明し、話題は広がっていった。

「いろいろな話を聞いていて思ったのは、『これから、これまでを決める』ってことです。私たちのこれからの取り組みが、亡くなった5か月の女児のこれまでの命、この子が生きた証を示すような気がしたんです」

グリーンフケア

会議は保護者支援についても取り上げた。

「父親への支援についてはどうでしょう。この人は、育児を引き受けたがゆえにパニックになり、揺さぶりをしたんです」

「そうですね、私はこれまで、父親は育児をする母を支える人だと思っていましたが、父の育児参加が求められる世の中ですから、父親を支えるアプローチが大切なんですよ」

「ところで、事件を起こした父親はもちろん、お子さんを亡くされた母親も、このことは生涯忘れられないはず。辛い思いを抱えて生きていかねばならないこうした方々に、社会としてできることはないのでしょうか」

「そうですね。そんなご両親の思いを受けとめ、支援するグリーンフケアが必要ですよ」

話題は、子どもを亡くした親たちのグリーンフケアの話になった。と、その時よみがえったのは、

度考えてみる」という企画にも登壇させてもらった。いずれも子どもの死に関するテーマだが、ここでは、後者について紹介する。

チャイルド・デス・レビューとは

チャイルド・デス・レビュー（以下、CDR）は、簡単に言えば「予防のためのこどもの死亡検証」であり、虐待死に限らず、事故死や内因死など全ての子どもの死を対象にしている。その目的は、死因究明や真実の追求ではなく、将来の予防策を提言することだ。

虐待防止学会では、この何年間か、わが国でCDRを本格実施することをめざし、医師や保健師、児童福祉関係者、弁護士、研究者などが参加してワーキンググループを立ち上げ、議論を重ねてきた。年に1度の学術集会は、その成果を学会全体に広げる貴重な場であり、毎回、工夫を凝らしてプレゼンを行っている。

このワーキンググループの委員長をしていたS先生が、本年4月、急逝されていたことだ。私たちは今回、S先生をモチーフにしたTシャツをつくり、全員がそのTシャツを着て登壇したのであった。そして気づいたのは、この取り組み自体がS先生を追悼するものとなっており、実は私たち自身のグリーンフケアにもなっていたということ。

無事プログラムを終えると、全員で記念写真を撮り、取り組みをさらに進めることを誓い合った。私はその後、あわただしく教育講演の会場へと向かったのであった。



日本子守唄紀行

鵜野 祐介

(立命館大学教授／子守唄・わらべうた学会代表)

第15回 「八雲が聴いた子守唄『ねんねお山のうさぎの子』」(島根県)

十一月末、錦繡の出雲路を訪ねた。ラファディオ・ハーン(小泉八雲)が著した「日本のわらべ歌」(『日本雑誌』所収、一九〇一年)に関する論考を雑誌『現代思想』十一月臨時増刊号に寄稿したことがきっかけで、八雲が聴いた島根県の子守唄の背景について詳しく知りたいと考えた。



松江駅に降り立つと、鳥取・島根の山陰両県における民話や民謡・わらべ歌の調査研究の第一人者である酒井董美先生が迎えに来て下さっていた。最初に市街地から車で約二〇分のある「出雲かんべの里 民話館」をご案内下さった。まず、八雲の代表作『怪談』に収められている伝説「耳なし芳一」を立体映像シアターで視聴した。次に、当館の語り部・安部光江さんから伝説「飯山狐」と八雲の怪談話「幽霊滝」の二話を酒井先生とご一緒に聞かせていただいた。安部さんの語りは、島根県内の客にも県外や外国からの客にも楽しんでもらえるように、共通語と島根の土地言葉をバランスよくミックスさせた語り口で心地よかった。また、語りを聴いた後に頂戴した野草茶と干し柿の味も格別だった。

それから街地へ戻り、酒井先生と別れた後、小泉八雲旧居と同記念館を訪ねた。記念館では、展示室の再話コーナーに地元出身の俳優・佐野史郎が朗読する「幽霊滝」の音声データがあり、聴き比べをした。松江への旅を計画されている方は是非、かんべの里と八雲記念館の両方に立ち寄られることをお勧めしたい。



師を務め、翌一八九一年十月、熊本第五高等学校へと転動した。松江での生活はわずか約一年二ヶ月だったが、この間にどんな子守唄を彼は聴いたのだろうか？

前述の「日本のわらべ歌」には全国各地のわらべ歌九八編、そのうち子守唄二十二編が収められている。そして、「出雲」と記したわらべ歌が十二編、そのうち子守唄が五編あり、妻セツから聴いたものも多かっただろうと推測される。また、五編とは別に、「東京」と記された次の子守唄が紹介されており、歌詞紹介の後に、「この歌の出雲における変え歌が、拙著(本作品集第六巻)にあるが、出雲の方がおもしろいとの解説が付してある。

ねんねんよ！ ころころよ！

ねんねん小山の うさぎは、なぜにお耳がお長いね？

おつ母さんのお腹に いたときに、

びわの実 ささの実 食べまして

それでお耳がお長いよ！

作品集第六巻所収『日本瞥見記』下巻「第二三章 伯耆から隠岐へ」に紹介された「出雲における変え歌」の歌詞とその前後の文章は次の通り。

…また、隠岐の母親たちが赤んぼを寝かしつけながら、この世でいちばん古い子守り歌をうたっている声を聞くこともできた。

ねんねこ お山の うさぎの子

なぜまた お耳が 長いやら

おつかさんの おなかに おるときに

びわの葉 ささの葉 たべたそな

それで お耳が 長いそな

その節が何ともいえず甘い哀調をおびていて、出雲や日本のほかの地方で同じ歌詞をうたっている節まわしとは、だいぶ違っているようであった。『全訳小泉八雲作品集』第6巻 334-335頁)

一八九二年八月にセツと一緒に隠岐を訪れた八雲が「この世でいちばん古い子守り歌」と称した、「何ともいえず甘い哀調をおびてい」る子守唄のメロディとはどのようなものだったのだろうか？

酒井董美『島根のわらべ歌』(今井出版二〇二四)に収められた、鹿足郡吉賀町柿木の伝承者・小田サメさんが歌った次の子守唄の後半部は、八雲の紹介した歌によく似ている。

ねんねんよ ころりんよ

ねんねがお守りは どこ行た

野越え 山越え 里行た

里のみやげに なにもろた

でんでん太鼓に 笙しょうの笛

どんなに泣く子も みなだまる

笙の笛をば 吹いたなら

どんなに泣く子も みなだまる

ねんねんよ ころりんよ

おとのお山のお兎は なしてお耳がお長いの

おかかのおなかにいたときに

稚なの実 稚なの実 食べたさに

それでお耳がお長いぞ ねんねんよ ころりんよ



『島根のわらべ歌』に掲載されたQRコードから、「かんべの里 民話館」のデジタルアーカイブのサイトにアクセスして、サメさんの歌声を聴くことができる。「ドドレド レーミー ソソミミ レー」が繰り返されるシンプルな旋律で、「この世でいちばん古い子守り歌」と形容することもできそうだ。吉賀町柿木は山口県と接する島根県南西端の山間部で、北東端の海上にある隠岐島とは遠く離れている。但し、どちらも島根の文化圏の中心である松江から離れた地にあり、柳田国男の「蝸牛考」で有名になった「文化周圏説」に従えば、隠岐と柿木に同様の古い伝承が残っている可能性もある。また、一八九八年生まれのサメさんがこの唄を耳にしたのは、八雲が隠岐で類歌を聴いてから十年も経っていない。それらを考え合わせると、サメさんの歌声に、八雲が聴いた隠岐の子守唄をダブらせてみることもあながち的外れとは言えないだろう。

翌日、松江駅からバスで北へ約一時間、日本海に面した島根町の「加賀かかの潜戸くげど」を觀に行つた。八雲もセツを伴ってこの地を訪れ、「これ以上美しい海の洞窟は見たことがない」と感激したと伝えられる。特に見たかったのが「旧潜戸」である。

亡くなった幼子の魂が訪れるという場所と聞き、そこに沸き立つ潮風の唸り声の中に、子守唄の原像が聞こえてくるかもしれないと心躍らせた。ところが、時化により当日の遊覧船は欠航されていたため、旧潜戸の洞窟の中にあるという賽さいの磧かきや六体の地蔵を実際に目撃することはできなかった。

だが、対岸の櫛島からその洞窟を眺望することができた。予想していた通り、それは幼子の魂が乞い焦がれる母の子宮への入口のシンボルに見えた。八雲も魅了したこの独特の景観こそ、出雲の神話や伝説の摇篮だと実感された。いつか遊覧船で訪れてみたい。



連載

帯津良一

心も体も

ときめいた好き一日



コロナ禍で一旦激減した講演が少しずつ回復して来ました。講演は私にとって、心のときめきの根元ですから、じつにありがたい話なのです。二つの講演が重なったために、ときめき溢れることになった一日について報告したいと思います。

一つはNHK文化センター町田教室です。講演時間は15時から16時30分まで。演題は、**ときめいて生きる―人生の幸せは後半にあり。89歳現役医師が実践―**

もう一つは西入間倫理法人会のイヴニングセミナーで、時間は18時30分から20時まで。演題は『ホリスティック医学から学ぶ場のエネルギー』『人生の幸せは後半にある、養生な生き方』とあります。

演題の共通項としては、**人生の幸せは後半にあり。**

で、二つの開催地が遠く離れているところに多少の不安がありました。が、わが病院の事務長さん、大丈夫！と太鼓判を押してくれたので引き受けした次第です。それにしても、道程の複雑さが私には重荷になりますので、町田市まで

の往復と、町田市から坂戸市を経て川越市という復路に各一人ずつサポーターがつくことになりました。

病院からタクシーで大宮駅まで行き、東北新幹線自由席で東京駅まで、東京駅で、往路のサポーターである、友人のUさんと落ち合い、二人して、いつもの東京駅近くの京料理店で昼食。生ビールの小ジョッキ一杯と、これまた、いつものすき焼小鍋を一人前。牛肉はもとも嫌いではないが、『養生訓』の

家業に励むのが養生の道

を範に、家業に励むためには、まず下半身の筋肉を弱らせてはいけません。そのためには、良質の蛋白質を摂らなくてはならない。良質の蛋白質とは何か。それは牛肉であるとの考えから、すき焼を多用しているのです。若い頃はステーキも好きでしたが、年を取るにつれ厚いステーキが苦手となり、その分、すき焼が多くなったというわけです。そうして、すき焼がますます好きになってきたものです。

それから二人して電車を乗り継いで、小田急



16時30分に講演を終えて教室から出たところ、なんと目の前に、うちの病院の運転手さんが坐っているではありませんか。一瞬にして現実に戻りました。私を次なる講演会場に運ぼうというのです。挨拶もそこそこに車中の人に。運転免許証の無い上に向音痴の私にはどのような道を通ってどのくらいの時間がかかるのか皆目わかりません。ただ、講演開始18時30分までに到着して欲しいと願うばかりでした。高速道路を含めた暗い夜道をひた走り、坂戸駅前の会場になんとか時間前に滑り込んだものでした。

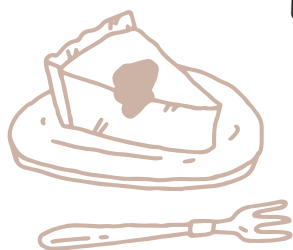
打って変わって、こちらは大きな会場に100人以上の人々が詰め掛けています。そして倫理法人会というだけあって、比較的若い人も多いらしく、若々しい熱気が溢れています。テーマはこちらも、人生の幸せは後半にありと養生ですから、大筋では町田市のそれと変わりはありませんが、場のエネルギーということを少し加えました。

まだ科学がこれを説明していませんので、命についてはまだエビデンスを備えた存在ではありませんが、医学である以上、命を主たる対象とする姿勢を崩してはなりません。そこで次のように考えました。腹膜と胃袋の間にしても胃袋と脾臓の間にしても体の中は隙間だらけです。この隙間に、たとえば**氣**のような生命に直結する物理量が分布して、**場**を作っていると考えて、この場を生命場と呼ぶことにしたのです。

老化と死をそれとして認め、これを受け容れた上で、老化に対して楽しく抵抗しながら、自分なりの養生を果していき、生と死の統合を目指す。

というものでした。

老化といい死といい、これらは大自然の摂理ですから、アンチなどと言っても詮も無いことなのです。それよりはこれらを認めた上で、心のときめきに恵まれた、さわやかな日々を送っていけばよいのです。このような話に対する皆さんの反応は極めて鮮やかで、じつに充実した時間を過ごすことができました。



線は町田駅へ着いたのが、2時20分頃。NHK文化センター町田教室では女性のH支社長さんがやさしく迎えてくれたものです。そこで往路のサポーターのUさんは役割を終えて単身帰路に。私は控え室で一息入れたあと、予定の15時丁度教室に。小さな教室で14人の生徒さんが迎えてくれました。男女は半々で、いずれも中年以上の方々で、いずれの表情にも、えも言われぬ優しさが漂っています。

ああ、好いクラスだなあ！

と感動したものです。そして、H支社長さんが初めからおわりまで同席していたところをみると、このクラスは期待のクラスだったのかもしれない。

まずは、

人生の幸せは後半にあり

から入りました。これは貝原益軒の『養生訓』の底流を流れる思想ですが、私は始めから大好きでした。それにしても人生の後半とはいったい何なのか。益軒先生は50歳以降を後半としていたようです。彼の生きた江戸時代の元

そしてその生命場のエネルギーが命。何らかの原因で、そのエネルギーが低下したとき、それを回復すべく生命場に本来的に備わった能力を自然治癒力と考えました。さらにこの世だけではなく、あの世にも期待と展望をもって、この世を生き切ることを、生と死の統合として、ホリスティック医学の究極としました。

講演が進むにつれ、会場の場のエネルギーはぐんぐんと上昇し、私の内なる生命場のエネルギーも体外に溢れ出たものです。そのエネルギーに背中を押されたのか、講演が終了しても、質問と発言は跡を絶たず、私の心のときめきも最高潮に達した感がありました。

そして、締めめの食事会です。食事は中華のコースでしたが、生ビールとウイスキーのロックにあらためてときめき、終わって帰路につくに下半身がやけに軽くフットワークがいいのです。立ちっぱなしの180分のおかげで心だけでなく体までときめいたようです。いやあ、好き一日でした。

帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

八十年後の新しい年に



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

2025年はあつという間に終わり、新しい年を迎えた。私が住むこ直島は、昨年は例年に増して慌ただしかった気がする。新しく直島新美術館ができたし、第6回となる「瀬戸内国際芸術祭2025」が開催された。私の住んでいる本村地区がメイン会場だったので、毎日人がいっぱい訪れていたこともあって、余計そう感じたのかもしれない。

それに最近、直島を舞台にしたゲームやアニメがあるようで、島のあちこちがファンにとつての「聖地」になっている。その聖地巡りを目的に若い人たちが多く訪れていたので、なおのこと例年より人が多かった。

そんな2025年は、あの戦争が終わって八十年目の年でもあった。日本は今でこそ平和だけれども、過去にはみんなが苦しんだ戦争があったことを忘れてはいけないと思う。

毎月、岡山県玉野市のお寺でお地藏さんのよだれかけを作る集まりがある。そこで、私より少し年上の高知出身の方から、戦時中の体験をうかが

うことがある。空から焼夷弾が雨のように降り注ぐ中、母親とともに逃げ回ったという話などだ。戦争を経験していない私たちにとって、その恐怖は、まるでテレビや映画の一場面を通して感じるもののように。私は戦争が終わった時、やっと2歳になったばかりだったので、戦争中のことも、戦争が終わった時のことも何も記憶がない。そんな戦争中のつらい体験をすることもなかった私が、この頃よく思い出すことがある。

私は6人兄弟の5番目で、昭和18年生まれ。弟は終戦後の昭和22年生まれだ。私が高校生になった頃、家族揃って夕飯を食べていると、母が突然、戦争中のことを語りだした。

「どうやらこの戦争はもうすぐ終わるらしい、という空気が世間に漂い始めた頃、日本が負けたら占領軍が来て、日本人は皆殺しにされるかもしれないという噂があった。その時、お兄ちゃんたちのように大きい子どもは捕らえられて、奴隷のように働かされることになるかもしれない。でも、みっちゃん（※私のこと）はまだ赤ん坊のよう

なものだから、使い道もなく、どんな殺され方をするのかと考えるだけで恐ろしかった。ごみのように殺されるくらいなら、私が抱いて一緒に死のう。本堂の前の石畳の上に座り、阿弥陀さまの前で死のう——そう心に決めていたのよ。」

母はそう語った。それは、その時に一度だけ聞いた話である。

幸いなことに、占領下といえども殺されることはなく、国は徐々に落ち着きを取り戻し、人々の暮らしも知らず知らずのうちに豊かになっていった。喉元過ぎれば熱さを忘れる。だんだん「この豊かさはあたり前」という気になって忘れていってしまう。人間は本当に勝手なものだと思う。

その後の母は「戦争が終わって良かった。日本は負けて良かった」というのが口癖であった。この頃は、口では「戦争はいけない」、「平和な国を作ろう」などというものの「八月や六日九日一五日」という句を見ても、何それ？と意味も分からない人ばかり。広島と長崎の原爆投下の日、終戦の日という3つの大事な日が詠まれた有名な句だが、



元気に泳げ直島のこいのぼり

「さようなら山口栄さん」

（西館記）

骨っぽい体格、長身の山口栄さんの

目はいつも遠くを見て笑っています。

無類の母親っ子、どんないい仕事も飛び込んできても、故郷の母の町への帰省は最優先、その日のためにはたらいっているのですもの、とおどけていた姿が忘れられません。

今、存命なら72歳まだまだこれからというようにも思い、残念でなりません。淋しいです。

国立音大を出て、地域の合唱指導という仕事の傍ら作曲もこなし、それも楽しそうにこなしていられしやいました。落語が好きで、駄洒落、冗句、楽しい話を交え、指導する姿に知らず知らず乗せられて笑いながら、みんな大声で歌うようになっていきます。

「いつもそんな大声で旦那を怒鳴りつけて……いえいえ、叱咤激励しているのですね。」と笑わせ、ボロンボロンと見事なピアノが続きます。

生き生きのびのびの合唱教室でした。大声で歌うことはありのままの自分を見せること、大勢で歌うことは相手を思いやること。全身で歌い全身で自分を表現すること、さあ声を張り上げて……

いつも汗びっしょり、冬でもシャツ姿の山口さん。好き嫌いが激しく、独身。



発刊された山口栄作曲集
お問い合わせは日本子守唄協会まで

かくいう私も知らなかった。この句のことは、例の高知出身の先輩が「ららばい通信の二〇二四年秋号5ページに載っていますよ」と教えてくれた。その時、私は改めて自分の愚かさや、善人ぶっていた姿に気付かされた。

浄土真宗では、人は生まれながらに煩惱が絶えず起こり、自分の力では清らかな善人にはなれない存在であるとして、これを「罪惡深重のわが身」と説くが、その言葉はまさしく自分のことだと思ひ知らされた。

こうして迎える新しい年、母の言葉や歴史を忘れず、静かに平和を願って、日々を過ごしていきたいと思う。

合掌

活動報告

原稿量によってレイアウト調整

応援がしてくださる方々

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使わせて頂きます。これからも日本子守唄協会への応援をよろしくお願い申し上げます。

2025年4月1日から2025年12月7日現在 五十音順 匿名希望16名(敬称略)

【個人】

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 大西義威
大野隆司
大橋鉄雄
大山加代子
小笠原茂
岡田詠美子
岡本喜久穂
小川正治
沖山邦子
小熊幸一
奥山糸子
落合美知子
小貴洋子
小野泰洋
小野寺けい子
小野寺純治
尾原昭子
小原みどり
小原ヒデ子
小山啓子
近藤純久
近藤美治
近藤美美子
春日弘重
加瀬博道
伊藤守
井上修佑
猪塚育代
今井弘子
今井要一
今元弘子
上原孝子
上原一美
内野綾子
内野経一郎
内山章子
鶴野祐介
梅田郁子
江藤昭子
江村清
近江千穂
大川幸枝
大河原尚夫
大嶋孝造
大嶋満吉
大塚恵枝 | 木下俊明
木下由美子
木邊円慈
木村賢史
木村ちひろ
木村泰雄
久良木恵子
国見修二
久良木恵子
黒澤正明
剣持英子
小井土洋一
鴻巣文明
古川洋文
小嶋潤一
児玉圭司
後藤洋子
小西道子
小林ヒデ子
小山啓子
近藤純久
近藤美治
近藤美美子
今野弘重
齊藤進也
齊藤秀子(華工房)
酒井重美
坂野美恵子
坂元威佐
佐々木喜久子
佐々木佳代子
佐藤久子
佐藤久光
佐藤久光
佐藤洋詩恵
日本宿古案
里見哲夫
眞田泰輔
沢田茂子
塩川治子
島内智秋
清水陸夫
白石源次郎
神秀俊
新保啓 | 須賀正二
菅原芳徳
菅原真澄
杉浦あい
杉西恭子
杉野善彦
杉本太郎一
須崎晃一
須藤義広
須藤博
芹澤文子
素野悟
田井二郎
大小原久子
高井京子
高知知江
高瀬得尋
高田昌子
高橋敬博
高橋ヒロ子
高橋如晴
高橋政子
高松榮子
竹内景哉
竹中裕子
竹之下典祥
田島葉子
多田式江
田中厚子
田中一郎
田中安子
棚澤育路
棚橋牧人
棚橋美和子
谷上昌賢
玉井祥子
田村弘子
千野千鶴子
千葉伝
辻容子
常田純孝
坪内まゆみ
鶴和義・聖子
徳永雅博 | 土正美
和男
砥綿隆昌
奈加靖子
永田亨
中谷比佐子
中根宏昭
永見徳代
永見昭
中山隆
成清幸子
西尾まき
西尾路子
西川敏之
庭山幸子
庭山正一郎
根元健二
野口美也子
則武清司
橋本昌
長谷川芳博
服部弘志
馬場妙
原昭邦
原田直之
原田昌美
治田るり子
肥田五和子
一柳芳子
平川智恵子
平野文興
廣瀬心香
廣畑心香
福井昌平
福井典子
福島昭子
福田孜
藤井恵子
藤澤昇
藤島寛昌
藤田幸生
藤間聖涼 |
|--|--|---|--|

【団体】

- | | | |
|---|---|--|
| 藤森久美子
堀越教之
本條秀太郎
本多宏子
増田善弘
松崎マチ子
松代洋子
松平静江
松永忠夫
松一子
黨勝男
丸山恒子
三浦敏昭・美智代
三浦眞澄
三浦義孝
水野晴夫
溝尻宏士郎
三田村慶春
宮崎壽子
宮地勝美
武藤元昭
村上真奈美
村田正巳
もりいさむ
森井照子
盛田好一 | 諸星京子
安岡富士子
きみさん
安元稔
柳沢真知子
山浦敬子
山浦毅
山浦衛
山川忠
山川敏明
山口洋子
山崎秀甲
山下五郎
山根光恵
山元絵津子
山本ヤエ子
谷村啓子
湯川れい子
横島京子
横谷和子
吉井勇
吉田春雄
吉永小百合
吉永小百合
米野宗禎
脇田巧彦
鷲丸力
渡辺綾子
渡辺久子
渡邊武雄 | あたらしや旅館
石田建材工業株式会社
株式会社大宅映子事務所
株式会社カガヤ不動産
株式会社ジェイ・ケイ・プラン
株式会社上信観光バス
株式会社大協エネルギー
株式会社佛蘭西屋
株式会社ミルケア
学校法人森学園
GARUYU雅流オルゴール
上信電鉄株式会社
セカンドハーベスト・ジャパン
全国わらべうたの会
彫金ギヤラリー(有)絵夢
TSLユウジ
日本の宿古案
長谷川トラストグループ株式会社
柳橋よし田 |
|---|---|--|

ご寄付の応援を お願いします！

日本子守唄協会の活動は、皆様からのご寄付に支えられております。すべての子ども達が希望に満ちた未来をつかめるよう、皆様のお気持ちの託された寄付金を、様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様は小冊子「ららばい通信」、イベントのご案内、また活動報告をお送りさせていただきます。どうぞ時期や金額に関わらず、年間を通してご寄付をお願い申し上げます。ご寄付への詳細は、日本子守唄協会事務局までお問い合わせください。

皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

- ◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真なども募集しております。
- ◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの活動など紹介したい情報がありましたら、ぜひぜひお教えください。「ららばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？
- ◎皆様と共にららばい通信をより良いものにしていきたいと考えております。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

日本子守唄協会事務局 編集人・西館好子

〒125-0054
東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階
TEL 03-6458-0283
FAX 03-6458-0284
Eメール info@komoruta.jp
URL https://www.komoruta.jp/



↑HPはこちら

ららばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。
また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。

【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店
(普)1090012 トクヒ)日本子守唄協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309